

日本福祉大学の加藤幸雄学長は、高齢化社会に通信制大学は大きな役割を果たすと指摘する。



日本福祉大学学長 加藤 幸雄

世界に例を見ない速さで進む少子高齢化が、日本社会を揺るがしている。多量も例外はない。多くの大学が、18歳人口の減少に苦しんでいるが、見方を変えれば高齢化社会の到来は、大学の新たな発展の好機だともいえる。

団塊の世代が高齢者の仲間入りを始め、高齢社会が一層加速される時代に入った。30年スパンで将来を考えると、これから働きだしている高齢者を介護や後見などの支援を必要とする高齢者が飛躍的に増加する時代である。人生90年、認知症4000万人の社会が到来する一方、少子化が進む中で子育て家庭が孤立し、子育て支援のニーズも高まる時代でもある。

新しい公共作り
問題解決の鍵は「新しい公共」の形成である。社会福祉や広義の「しく

通信制大学、高齢化が好機

専門職の資格取得／起業・社会貢献を支援

インが、産業や生活のキーワードとなる。そこでは、当然のことながら、社会福祉や「く」を支える専門職の需要が増し、社会福祉や精神保健福祉士をはじめとした社会福祉や保健医療等に関する資格への期待が膨らむ。仕事の幅を広げるために資格取得を望む社会人が増え、その受け入れと人材育成は、大学に課せられる新たな使命となる。

だが、中央教育審議会・大学分科会大学規模・の期待が膨らむ。仕事の幅を広げるために資格取得を望む社会人が増え、その受け入れと人材育成は、大学に課せられる新たな使命となる。

ネット活用、利便性向上

以上のような問題意識から、日本福祉大学は01年に通信教育を始めた。

24時間どこでも
資格を取得する社会人リカレント教育が主眼で、

活用して効率的にキャリアアップを図っている。

かつて生涯学習の主流は、教養を深めることだった。だが、高齢化が進み高齢者の労働や社会貢献に対する期待が高まるにつれて、生涯学習の役割も変化している。

大学経営部会が「大学における社会人の受け入れ促進について」（2010年3月）で指摘したように、社会人が大学で学びたいと思っても、①業務が多忙の雇用者の理解が得られない②費用や学修時間確保が困難③魅力的なカリキュラムがないなどの阻害要因があった。

勤め先が通信教育を受講する場合は、学びが効率的で費用が安価なことに加えて、学習モチベーションが低下しない工夫が欠かせない。それには、従来のペーパー添削ではなく、インターネットとオンデマンド教材を駆使する上で、双方向かつ

効果的な自己学習を促進する取得単位ごとの学費を低減し、資格取得などの目的と必要に応じたカリキュラム設定を自由にすることも重要だ。

「どこでも」「だれでも」「いつでも」「たれでも」「だれでも」を標榜する通信教育は、個人の工夫で通学課程より安価に学習機会を得るという利点がある。移動しない「専門能力の高さ」が重要な要素である。このとき、インターネットを有効に使ったりリカレント型通信教育の果たす役割が、現地や現場の必要に応じて、リアルに体験できる、私たちが経験から

「幅広い領域での社会貢献を目的とした営みにかかわる仕事は限りなく広がっており、パリアフリーやユニバーサルデザインが、産業や生活のキーワードとなる。

「リカレント」、職業移行や社会貢献などのニーズは高いとして、多様な大学の取り組みと国の支援

「リカレント」、職業移行や社会貢献などのニーズは高いとして、多様な大学の取り組みと国の支援

「リカレント」、職業移行や社会貢献などのニーズは高いとして、多様な大学の取り組みと国の支援

教育

効果的な自己学習を促進する取得単位ごとの学費を低減し、資格取得などの目的と必要に応じたカリキュラム設定を自由にすることも重要だ。

主たる学習時間に充てる学生もいるほどだ。在籍する学生は約7千人。平均年齢は40歳前後で、近年は大卒者が多くなっており、編入制度を活用して効率的にキャリアアップを図っている。

難解な用語の解説や、より高度な学習がしたい場合の文献や学び方を織り込むこともできる。将来的には図書館へのアクセスも可能になる。インターネットには、多くの学生と教員の対話は、別々の教材の改善効果をもたらし